昭和五十一年三月七日の手紙

『（前略）漢字ゲームも今日でちょうど三百字になりました。ほとんど毎日、覚えた漢字を全部、楽しく復習させております。一枚一枚読ませますと、約二十字くらい読めない字があります。けれども、読んで取らせますと、読めなかった字も、ほとんど間違えずに取ります。

平がなは、全部、濁音、半濁音を含めて、読み書きともにできるようになりました。けれども単語だと書きますが、まだ文を書き表わすことができません。

短い文は、読んで理解できるようになってきています。漢字の書き方は、平がなを先に教えたため、この二月から始めたばかりで、今日現在、十五字を書きます。

先生から頂いた“赤ずきん”の絵本、あれからほとんど毎日読んで聞かせております。最初は話の内容がよく理解できていなかったようですが、毎日読んでやっているうちにわかるようになり、二度三度と要求してくる日もあり、私の方が参ってしまうことがありました。

今では暗記してしまった部分もあります。また、話を聞いて、自分で疑問に思うことを質問できるようになりました。

例えば、この話にはお父さんが登場しませんので「赤ずきんのお父さんはどうしているの」と尋ねたり、初めのページで、お婆さんが眼鏡を出けているのに、狼の腹から出て来たお婆さんが眼鏡を掛けていないのを発見して、「お婆さんが眼鏡を掛けていないが、どうしたの」などと尋ねます。

アスクミーは、一人で遊んでいる間に、現在では七割弱は覚えて、読めるようになっています。

“二人の小人（『注　楽しい漢字』の中の絵本の一冊）のレコードも、大体話の筋が理解できるようになりました。歌（『楽しい漢字』の中の絵本の一冊）のレコードは、特に大好きです。絵本の漢字混じりの文の歌詞を読ませ始めてみようかと思いますが、どうでしょうか。

絵を描くことは余り好きではないようです。ただ色々な色を使って、ます目をきれいに塗りつぶすことが好きです。人の顔や身体などの絵は、下手ながら描きます。

平がなが書け、漢字も書けるようになってきたのに、絵を描きたがらないのが不思議です。発達の過程の途中が抜けてしまったためでしょうか。少しずつ描く力をつけてやりたいと思いますが、その指導法をお願いします。

話す力は、徐々に、少しずつながら進歩していますが、遅々としていて、普通の子と、その差は開くばかりです。けれども、学校の、一日の様子を、大体間違いなく、たどたどしいが考えて（思い出して）話すことができるようになってきています。

（話したことを学校の連絡帳に書き、担任の先生に尋ねてみますと、事実を正しく伝えているようです）

算数は、1から20までを読み書きでき、大小もわかります。数の順序で、次の数は正しく答えますが、前の数はまだしっかりと言えません。足し算は少しずつ理解できるようになってきたところで、ある数に１を足すことはできるようになりました。

学校の様子は、昨日朝から一日、愛子の様子を見て来ましたが、落ち着いて来て、同年齢の他の子、一、二を除く上級の子よりも安定感が感じられ、嬉しく思いました。

ただ、知的教育が少なく、系統立てた各教科の教育も少なく、残念に思いました。私は、普通教室以上に各教科の教育の必要性を感じていますが、教室の現状では、一年生から六年生までの子がいるため、できないのが現実です。

学習しようという意欲のある子は、愛子を含めて二、三人で、他はないように感じます。愛子は、体育と図工の時間だけ、普通教室へ行きます。体育は、体力がついてきて、できないながらも、同じように一時間を過ごせるようになっておりますが、図工は、能力的にもまだ問題が多く、同じようにできないことが多くて、先生に手伝って頂いて、どうにかやっています。

特殊教室の担任の先生の話では、現在の力は（現在七歳一か月）四歳から五歳くらいだそうです。ただ、文字の読み書き能力は、石井先生の御指導のお蔭で、ずっと上のレベルです。

教育を上手にしてやれば、少しずつでも進歩発達できるのが、どうも今の教育では、なかなか進歩は少ないです。先生は一所懸命やっておられるのですが、どう教えるかがむずかしいようです。

知的な面、文字の読み書き、数の力は、ほとんど家で覚えたもので、学校での学習は少なく吸収してきたものは極めて少ないように思います。

早いもので、四月になったら、普通学級の一年に入れる方が良いか、特殊の二年に進級させるべきか、色々家内と思案しております。

特殊の担任の先生は、普通学級よりも特殊教室を奨められているのですが、教室の現状を見る時、迷います。思い切って普通教室の新一年生に入れてみたい気持はあるのですが、新一年生より劣る面が多いことに気づき、果たして同じようにやれるだろうか。本人の負担が多くなり、学校嫌いになっては、と思ったりします。

先生の話を聞く力、話す力等、新一年生の子と比べてまだまだ劣りますので、どちらにしたら良いだろうかと、いろいろ家内と話し合っている今日このごろです。どうしてやるのが良いか、先生の御指導をお願いします。

また、これからの家庭学習面に、参考になる本とか、漢字やかなの実用性を高めるための、今後の指導法、漢字の書き方、愛子に役立つ本、教材等敢えて下さい。（以下略）』

この手紙は、“漢字ゲーム”を始めた日からちょうど一年八か月たった昭和五十一年三月七日付けの手紙です。前の手紙との間に、何通かの手紙があるわけですが、紛失して手元にありません。昭和五十年代の手紙が一通も手元にありませんが、五十年の四月、特殊教室に入れるべきか、普通教室に入れるべきかの相談を受け、それに返事を書いた記憶は、今も鮮かに残っています。

そうして一年を特殊教室で過ごしましたが、進級時期の今また、その問題で悩み、その相談を含めて愛子ちゃんの現状を報告してくれたものです。手元にその折の返事のコピーがありましたので、それをそのまま掲載します。